

題となつてゐる。今までの災害から得た反省を伝え、災害に負けない「生きる力」を子どもたちに授けることが大切である。中央教育審議会の答申にある、自ら主体的に考え、行動し、問題を解決していく力。他人を思いやり協同していく豊かな人間性は、まさしく大地震を前にした子どもたちが獲得しておくべき力である。後半のパネルディスカッションでは、専門家を交えながら防災教育のあるべき姿をさぐるともに、地元の防災活動の実態や生徒・教師の防災意識のアンケート調査に基づいた発表を聴き、日ごろの防災活動について研究協議した。

### ★特別第3分科会 「世界の親子の絆意識」

国際化時代の中で、他国の親子の絆を考え、日本における絆を見直す。

■基調講演・コーデイナー：アメリカ合衆国欧州連合公式通訳／小寺裕子氏  
パネリスト：学校法人名古屋国際学園／エリック・オルソン・キク

子氏  
国際協力センター／ベトナム研修監理員／樋口ホア氏  
国際協力センター／アフガニスタン研修監理員／アマディヤール治春氏

今、時代は世界の独自の文化や生き方を相互に尊重する多文化共生社会に変化しつつある。今後、青少年が国際社会の一員として活動するためには、自国の文化理解を深めると同時に世界の異文化理解が重要となる。

小寺氏はどの国も核家族化が進み、似たような悩みを抱えながら子育てをしていることや、日本と他の国の子育ての違いを述べ、ふれあいを大切に親子の絆を深めていきたいと提言した。その後パネルディスカッションでは、各国の子育てについての発表があり、世界の親子の絆意識についての意見が交わされ、自立した人間に育てるために、親子の絆を深めることが、大切だと話し合われた。  
(参照 愛知大会速報)

## 第1分科会にて発表！ 八王子東高等学校の取り組み

「子ども・教師・保護者で繋ぐ信頼のトライングル」と題して八王子東高等学校19年度PTA会長日野出美智子さんが発表した。

パワーポイントを使って、リアルに活動の様子を語ってくれた。各単Pでの活動のヒントが随所にちりばめられているので以下に紹介することとした。

皆様こんにちは、東京からまいりました、日野出と申します。東京都立八王子東高等学校は、昭和51年に開校した、今年で創立33年とまだまだ伝統浅き学校です。敷地は狭くグラウンドも変則的と、施設面ではけつして恵まれていないとはいえませんが、それを補って余りある関係者の情熱と努力によって、東京都の「進学指導重点校」に指定され、都立高校の中で、トップクラスの進学実績を誇り、他県からも毎年多数の学校関係者が視察に訪れ

ています。先生と生徒が一緒に学校を作り上げていくという姿勢と、「文武両道」の精神は、開校時より今も変わらずに受け継がれております。

部活動はもとより、「しらかし祭」と呼ばれる9月の「文化祭と体育祭」2月の「合唱祭」などの行事も非常に盛んで、生徒が自主的に運営して先生方が陰で支えるという方針が、徹底されています。一方で生徒の進学希望にあわせたきめ細かい指導も充実し、夏休み、冬休みの講習数は昨年度84を数え、朝補習も年々その講座数が増えてきています。

●教師と生徒が共に作り上げてきた学校  
忙しい高校生活を十二分に満喫して、尚且つ自分の夢の実現のために努力する生徒たち。そして、その生徒たちの夢の実現のために自らにも厳しいスケジュールを課される先生方の熱意のもとに

「うちの子たちはやる時はやりませんから」という信頼感で繋がった先生と生徒の良い関係が八王子東高校の学校生活全ての基本になっております。

●信頼関係の大切さ  
子ども達に続けくもしもの時の友が真の友

「信頼感で繋がる」ということが、どれほど大きな力となるかを、2年前の未履修問題が起きた時に私たちが実感する事となりました。体育館の後ろ一杯に埋め尽くされたマスコミの前で、臆することなく自分の意見を述べ、学校を気遣う発言をする子ども達。その子ども達に先生方も役員も感動で胸が熱くなり

ました。その後も折に触れて先生方に優しい気遣いをする子ども達の姿は、学校の普段からの教育方針が間違っていないこと、子ども達の学校に寄せる信頼が微塵も揺らいでいないことを示していました。PTAもその子ども達の姿に、万全で学校を支える決心をしました。

なりました。その後も折に触れて先生方に優しい気遣いをする子ども達の姿は、学校の普段からの教育方針が間違っていないこと、子ども達の学校に寄せる信頼が微塵も揺らいでいないことを示していました。PTAもその子ども達の姿に、万全で学校を支える決心をしました。

子ども達に、そして保護者に信頼されていると言う実感と感動が、先生方のその後の行動にどれほどの力を与え、学校を急速に正常化させる原動力になった事か。「もしもの時の友が真の友である。」と、あるベテランの先生がPTAに対して言ってくくださった

「信頼感で繋がる」ということが、どれほど大きな力となるかを、2年前の未履修問題が起きた時に私たちが実感する事となりました。体育館の後ろ一杯に埋め尽くされたマスコミの前で、臆することなく自分の意見を述べ、学校を気遣う発言をする子ども達。その子ども達に先生方も役員も感動で胸が熱くなり

ました。その後も折に触れて先生方に優しい気遣いをする子ども達の姿は、学校の普段からの教育方針が間違っていないこと、子ども達の学校に寄せる信頼が微塵も揺らいでいないことを示していました。PTAもその子ども達の姿に、万全で学校を支える決心をしました。



八王子東高等学校19年度PTA会長日野出美智子さんの発表を終えて第1分科会での発表を終えて日野出美智子さん

言葉が忘れられませんが、未履修問題は残念な事件でしたが、その後のPTA活動に色々な気づきをもたらしてくれました。

子ども達が示したような学校への信頼を、保護者一人一人に持つてもらうにはどうすればよいのか。その為には全ての会員に向けて、学校が普段何を、どういう方向へ進もうとしているのかを知ってもらい、感じた事を気軽に言える機会を増やすことが大切であると考えました。

●PTAからの情報発信  
①一斉配信メールの導入

その為の手段として、まず、学校とPTAの日頃の活動を保護者に身近に感じて参加して頂く為の情報発信の方法を検討いたしました。はじめに、「子どもが手紙をださないで、お知らせが伝わらない」との不満を解消するために、メール一斉配信システムを導入いたしました。



85%に達しておりますが、全ての会員に登録していただけるように、保護者会などでも随時呼びかけをおこなっております。

② ホームページの充実  
2番目として、ホームページの充実に取り組みました。

更新回数を増やし、イラストや写真を増やす事で、見て楽しいホームページになるように工夫しました。

行事の案内や、行事後に感想や報告を掲載することで、活動に参加しなかった会員に、次回は参加してみたいなど思ってもらえるようなページになっております。

お手紙が届かなくても、ホームページから直接行事参加の申込用紙を印刷できる機能もつけ加えました。

③ 広報誌「志蓮伽之」による情報の共有

3番目が広報誌による情報の共有です。広報委員会では、PTA広報誌「志蓮伽之」

を年三回発行しております。広報という点、委員選出に苦勞するPTAが多いなか、70

名以上という大所帯で、各号を完全に分業制にして、一人の活動期間を短くすることで、負担を減らしております。父親の参加が多いのも特徴です。

都高P連の広報誌コンクールにも毎年入賞し、昨年の全高P連埼玉大会でも、メイン会場に展示されました。

広報誌、ホームページ、一斉配信メール共に、規定をつくり、個人情報に配慮した制作がなされております。

● 親睦会等の意図するもの

信頼関係を築くためには、情報発信をするだけではなく、同じ学校に通う子ども、保護者同士として、また八王子東高校の教師と保護者と(して)の人間関係を作るための場の設定も大切であると考えました。

おいしい料理とぎつくばらんに話が出来る環境を整え、お互い自己紹介しながら初顔合わせをしますが、「先生方の話の面白さ」で場が盛り上がり、会が終わる頃にはすっかり打ち解ける事が出来ま

この会で先ず委員と先生が互いを知ること、次のステップのクラス単位の親睦会がスムーズに開催できるよ

保護者会などでは話せない、個人的な悩みや相談や、子ども一人一人の様子も先生からお話し頂けるので、より親密な会となり仲間意識が芽生えます。

● 信頼関係の大切さ  
全ての会員に、何かの時に気軽に相談できたり、一緒に行事に参加したりできるような、仲間としての関係を作ることが、大きな目的です。これは、何か問題が起きた時に、仲間話すことで、自分だけではないんだという安心感を持つのに有効です。

東応援団懇親会」と名づけられて、子どもたちのがんばりに感動した先生と保護者が東高の熱き応援団として集結するという気持ちを込めています。

昨年は、先生24名、委員72名の出席を得て、工夫を凝らした企画に東高大好きな気持ち

こうした関係作りを積み重ねることで、「うちの先生すごい」「うちの保護者もやるな」と、お互いを認め合う

気持ちが生まれ、子どもと先生との間にある信頼関係が保護者と先生との間にも芽生え、八王子東高校を中心とした「信頼のネットワーク」が構築されていくのだと思いま

● 八王子東高校応援団  
最後になります。子どもを頂点として、保護者と学校がそれを支えるというトライアングルの関係の中で、保護者同士、また保護者と先生との信頼関係を築くために、「こども達の大好きな八王子東高校を、保護者も大好きになつて応援しよ

う」という気持ちがある全員に浸透していくこと、その為の活動がPTAの大きな柱です。こうして生まれた信頼関係が、大きなエネルギーとなって循環し、先生を育て、保護者を育て、人として成長していかれるのも、PTA活動の大きな魅力です。PTAの構成

員は毎年変わりますが、その中で、脈々と変わらぬ繋いでいくのは、「八王子東高校応援団」であるという熱き想い。その表現方法は、その年集まった委員たちが、今年流、自分たち流に変えること

で、熱き想いを引き継いでいくことが出来るのだと思います。PTA活動を通じて、学校の理解が生まれ、信頼のネットワークを持つことで、会員全員が其々の学校の熱き応援団になることを、願ってや

みません。



★★★皆の手で ぜひと成功させよう!★★★

平成22年

第60回全国高等学校PTA連合会大会

東京大会